

第 2 回地域検討委員会の指摘と対応

会議名	第 2 回平成 22 年度海域の物質循環健全化計画播磨灘北東部地域検討委員会
日 時	平成 22 年 12 月 14 日 (火) 13:30 ~ 15:20

1. 地域の物質循環に係る情報整理経過の報告

・【参考資料 - 1】の内容について

指摘者	指摘内容	対応
駒井委員	下水処理場の排出負荷について、窒素以外の負荷量については整理しないのか。	資料 - 5 の「平成 22 年度播磨灘北東部地域検討とりまとめ(案)」の P.8 に追記した。
首藤委員	藻場面積は主にアマモ場か。	資料 - 5 の「平成 22 年度播磨灘北東部地域検討とりまとめ(案)」の P.31 に追記した。
出口委員	「ため池のポテンシャル」(参考資料 - 1 P.20) と記載されているが、対策として利用するという位置づけか。	今後の検討を進める中で対策として重要との認識になれば、利用する考えである。
	下水処理場の「窒素排出量増加運転」(参考資料 - 1 P.1) について効果は把握しているか。	実施時は通常時に比べ約 1.5 倍の窒素が排出されることが確認された。排出先の沖合い海域での効果まではわからない(藤澤委員)。
山口委員	海底耕耘の効果が得られていることから、検討資料として追加すること。	資料 - 5 の「平成 22 年度播磨灘北東部地域検討とりまとめ(案)」の P.47 に追記した。

・シミュレーションモデルについて

指摘者	指摘内容	対応
首藤委員	シミュレーションモデルは魚類までを対象とするのか。	統括委員会で構築するシミュレーションモデルによる予測は、1 次生産としての植物プランクトンから動物プランクトンまでを対象とする(統括委員会事務局)。

2. 栄養塩類の循環状況解析について

・ノリの色落ちについて

指摘者	指摘内容	対応
反田委員	ノリは、平成8年度に色落ちがあったはずなので、確認すること。	資料-5の「平成22年度播磨灘北東部地域検討とりまとめ(案)」のP.148に記載

・ため池について

指摘者	指摘内容	対応
駒井委員 反田委員	供給源として利用できるかの検討が必要である。具体的には、構造は排水が可能なものか、管理可能な状態にあるか、底泥放流に伴う下流への影響の把握など。	情報収集を実施し、その結果を資料-5の「平成22年度播磨灘北東部地域検討とりまとめ(案)」のP.27に記載した。
園田委員	対策に取り込むためには情報が不足しているようだが、現状でシミュレーションモデルへ取り込むことは可能か。	ため池からの放流水が海域に流入するまでに河川内で水質がどう変化するかは、シミュレーションでは表現できないが、対策実施に伴う海域への流入負荷量の変化についての情報を地域検討委員会より提供頂ければ海域の水質予測は実施できる(統括委員会事務局)。

・下水処理場について

指摘者	指摘内容	対応
藤澤委員	ため池の底さらいの実施は困難な状況にあるが、浄化センターは行政が管理しているため対策実施の実現性が高い。「窒素排出量増加運転」は、今後重要な位置づけとなるため、対策項目として追加する必要があるのではないか。	資料-4の「物質循環円滑化のための方策と次年度検討方針」のP.7に記載した。
竹内委員	下水道以外の事業場や上流部に位置する浄化センターは、「窒素排出量増加運転」の対象としていないのか。	上流部については、浄化センターからの排水を加古川に放流しているが、下流側で上水として利用されており、上水の原水水質確保のため対象外と考えている(藤澤委員)。

・評価項目について

指摘者	指摘内容	対応
出口委員	ノリの収穫や漁獲量を検証しても地域の循環量は把握できないのではないか。効果の評価はどのような指標で行うのか。	資料-4の「物質循環円滑化のための方策と次年度検討方針」のP.6に記載した。
反田委員	ノリや魚類の漁獲量は、時間的に効果が現れにくいことと、対象海域だけではなく海域全体の要因によっても変化しているため、対象海域の評価指標として用いるのは難しいのではないか。	資料-4の「物質循環円滑化のための方策と次年度検討方針」のP.6に記載した。

・対策について

指摘者	指摘内容	対応
山口委員	対策は、1つだけ実施して解決するものではないため、複数の対策が必要ではないか。	資料 - 4 の「物質循環円滑化のための方策と次年度検討方針」の P.7~9 に記載した。
反田委員 山口委員	検討にあたっては、関係者のコンセンサス、対策実施による他への影響を十分に把握すること。	資料 - 4 の「物質循環円滑化のための方策と次年度検討方針」の P.16 に記載した。

・まとめ方について

指摘者	指摘内容	対応
反田委員	対策の方向性、着目するポイント、シミュレーションモデルの計算ケースとこれらを踏まえた評価方法のイメージがあれば整理しやすいのではないか。	イメージ図を作成し、資料 - 4 の「物質循環円滑化のための方策と次年度検討方針」の P.5 に記載した。

以上